



Title	イラン民話における二つのAT301型
Author(s)	竹原, 新
Citation	大阪外国語大学論集. 2002, 27, p. 111-133
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/79892
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

イラン民話における二つの AT301 型

竹 原 新

On Two Types of AT301 in Iranian Folktales

TAKEHARA Shin

The aim of this thesis is to explain the difference between the types of “Apple orchard” and “A boy of one-sided body”, since both of them are to be categorized as AT301, according to the classified catalog of Aarne and Thompson, but these are recognized as different types in Iran .

Firstly, by analyzing motives of eight folktales of “Apple orchard” and five folktales of “A boy of one-sided body” in detail, each standard type of these two folktales could be shown. Secondly, a careful comparison between the two standard types makes it clear that the difference between those two is that the main characters are portrayed as “a hero” or as “a clown.” Furthermore, it could be shown that the classification of “a type of a hero” and “a type of a clown” applies to Iranian magic tales, in which a boy plays a leading part.

It is concluded that the difference between the types of “Apple orchard” and “A boy of one-sided body” is similar to that of “a type of a hero” and “a type of a clown” Iranian magic tales in general, in which tales a boy is the main character.

1. はじめに

イラン民話における魔法昔話は少年が主人公となるものが中心となる。例えばアンジャヴィー・シーラーズィー編『イランの民話』¹⁾には 250 話の民話が収録されているが、このうちモチーフあるいはエピソード構成がアアルネ・トンプソンによる『昔話の型』²⁾のものと合致する魔法昔話は 108 話である。この 108 話中、92 話において少年が主人公となり、16 話において少女が主人公となる。

さて、この少年が主人公となる魔法昔話の中に、イランで広く知られる「林檎の園」という民話がある。この民話はイラン各地で伝承され、類話も比較的多い。この「林檎の園」は、『昔話の型』における AT301「奪われた三人の王女」に酷似しており、世界的に分布する同話型のイランの事例であると考えられる。これとは別に、同じくイランで比較的よく知られた民話に「半身小僧」がある。この民話もイラン各地で伝承され、複数の類話が

あり、同様に AT301 に酷似する。すなわち、この二つの民話はアアルネ・トンプソンの分類方法では同じ話型に分類可能であるにもかかわらず、イランにおいては別の話と認識されているのである。上記のアンジャヴィーもこの二つの民話を別の話として分類している。また、実際に原語で一読した限りにおいても「林檎の園」と「半身小僧」は全く違った印象を受けるだけでなく、「林檎の園」は「半身小僧」より倍以上も長い話であり、イラン人でなくても二つの民話と同じ話と認識することはできないと考える。

本稿においては二つの民話群を「林檎の園」型および「半身小僧」型とし、双方の類話の分析から標準型を提示し、二つの型がアアルネ・トンプソンの分類法では共に AT301 であることをあらためて確認する。その後、両者の標準型を比較することにより根本的な相違を合理的に導き出し、この現象を説明したい。

2. 「林檎の園」型の類話のモチーフ比較

『昔話の型』によると、AT301 は「I. 主人公は超自然的な出生で超自然的強さを持つ。II. 転落。III. 捕らわれた娘たち。IV. 救出。V. 裏切られた主人公。VI. 再認識。」という 6 つの部分から成る。現在までに筆者が確認した「林檎の園」を含む 8 話の類話の梗概を示し、モチーフの分析を行う³⁾。

【類話 1】「シーモルグの物語」(採話地：ホメイ)

I-a. 三人の王子を持つ王がいる。マレク・モハンマド王子だけが母親が別だが勇敢で恐れ知らずである。I-d. 王は夜光石の柘榴の成る木を持つ。I-e. ある日夜光石の柘榴が盗まれる。II-a. 二人の兄弟(年齢の上下は記載されず)が居眠りをして番に失敗する。II-b. マレク・モハンマドが番に成功し雲から出た手を切る。II-c. 血の跡を追って井戸に着く。II-d. 兄弟二人は井戸に熱くて入れない。II-e. マレク・モハンマドは井戸に入る。III-a. 娘(上の姉)を捕らえるディーヴを剣で殺す。III-b. 娘(下の姉)を捕らえるディーヴを剣で殺す。III-c. 娘(末娘)を捕らえる三匹目のディーヴを剣で殺す。IV. 娘たちは井戸から出る。V. マレク・モハンマドは兄二人に騙されて井戸に残される。B-a. 白と黒の羊が現れるが娘の指示とは逆に黒に乗ってしまい七階下の世界に落ちる。B-d. 牛飼いを恐れさせるライオンを手なずけて鋤車を引かせる。B-e. 水を支配するライオン(同じライオン)を退治して生け贄の王女を救出する。B-b. シーモルグの雛をねらう蛇を倒す。B-f. シーモルグによって地上世界に連れ帰られる。B-c. 別れ際に、燃やすとシーモルグを呼べる羽をもらう。VI-a. 仕立屋の弟子になる。VI-b. 娘たちの結婚式のための衣装を縫う依頼がくる。VI-c. シーモルグを呼び、アズマーベヘタランに服を作らせる。VI-f. 衣装の美しさから王宮へ呼ばれ娘と再会する。VI-g. 兄弟たちを許す。VI-h. 娘と結婚する。

(Anjavī Vol.1-1. 152-171)

【類話 2】「林檎の園」(採話地：アラーク)

I-a. 三人の王子を持つ王がいる。I-d. 王は実が熟れると娘になる林檎の木を持つ。三つの実が成る。II-a. 長男と二男が居眠りをして番に失敗する。II-b. 三男 (マレク・モハンマド) が空から出た手を切る。II-c. 血の跡を追って井戸に着く。II-d. 兄二人は井戸に熱くて入れない。II-e. マレク・モハンマドは井戸に入る。III-a. 娘 (上の姉) を捕らえるディーヴを剣で殺す。III-b. 娘 (下の姉) を捕らえるディーヴを剣で殺す。III-c. 娘 (末娘) を捕らえる三匹目のディーヴを剣で殺す。IV. 娘たちは井戸から出る。V. マレク・モハンマドは兄二人に騙されて井戸に残される。A. 真珠とルビーの出る金の臼と喋ると嘴から宝石の出る金のニワトリの出てくる金の箱を見つける。B-a. 白と黒の牛が現れるが娘の指示とは逆に黒に乗ってしまい七階下の世界に落ちる。B-d. 牛飼いを恐れさせるライオンを退治する。B-e. 水を支配する龍を退治して生け贄の王女を救出する。B-b. シーモルグの雛をねらう蛇を倒す。B-f. シーモルグによって地上世界に連れ帰られる。B-c. 別れ際に、燃やすとシーモルグを呼べる羽をもらう。VI-a. 金細工師の弟子になる。VI-b. 娘は結婚の条件に喋ると嘴から宝石の出る金のニワトリの出てくる金の箱を求める。VI-c. シーモルグを呼び、喋ると嘴から宝石の出る金のニワトリの出てくる金の箱を用意するが兄の手柄になる。VI-d. 娘は結婚の条件に真珠とルビーの出る金の臼を求める。VI-e. シーモルグを呼び、真珠とルビーの出る金の臼を用意するが兄の手柄になる。VI-f. 黒い服を着て黒い馬に乗り結婚式の日に娘を奪い返す。VI-g. 父王と戦争して兄たちを捕虜にする。(殺さない) VI-h. 王位を継ぎ娘と結婚する。
(Anjavī Vol.1-1. 144-152)

【類話3】「マレク・ジャムシードの物語」(採話地：タブリーズ)

I-a. 三人の王子をもつ王がいる。三男 (マレク・ジャムシード) が最も勇敢である。I-d. 王は林檎の木を持つ。ある年に七つの金の林檎が成る。II-e. 毎晩一つずつ実が盗まれる。II-a. 長男と二男が居眠りをして番に失敗する。II-b. マレク・ジャムシードが毛むくじらの手を切る。II-c. 血の跡を追って井戸に着く。II-d. 兄二人は井戸に熱くて入れない。II-e. マレク・ジャムシードは井戸に入る。III-a. 三人の娘を捕らえる龍を剣で殺す。IV. 娘たちは井戸から出る。V. マレク・ジャムシードは兄二人に騙されて井戸に残される。B-b. 鷹の雛をねらう蛇を倒す。B-c. 鷹からお礼に羽をもらう。B-e. 水を支配する龍を退治して生け贄の殿様の姫を救出する。B-a. 白と黒の羊が現れるが鷹の指示とは逆に黒に乗ってしまい暗黒界に落ちる。B-d. 七つの頭を持つディーヴを倒し人々を救う。B-f. 鷹によって地上世界に連れ帰られる。VI-f. 競技 (棒を割る、獅子を倒す、鎖をちぎるといった大道芸的なもの) で目立った成績を達成する。VI-g. 兄たちはうなだれる。(殺されない) VI-h. 王位を継ぎ娘と結婚する。
(Anjavī Vol.1-1. 172-186)

【類話4】「英雄アフマド」(採話地：ダラギヤズ)

I-a. 老夫婦と勇敢な息子アフマドがいる。I-f. アフマドが三つの頭をもつディーヴ

に捕らえられている娘の肖像に恋をする。I-g. 旅の途中、三匹のディーヴに相撲で勝ち家来にする。I-h. 三つの頭を持つディーヴのいる町に着く。II-a. 家来のディーヴたちは三つの頭を持つディーヴに米をとられる。II-b. アフマドが三つの頭を持つディーヴの首を一つ切る。II-c. 三つの頭を持つディーヴは井戸に逃げる。II-d. 三匹のディーヴは井戸に熱くて入れない。II-e. アフマドは井戸に入る。III-a. 娘を捕らえる三つの頭を持つディーヴと二昼夜相撲をとり退治する。IV. 娘は井戸から出る。V. アフマドはディーヴたちに騙されて井戸に残される。B-a. 白い羊が現れて乗ると地下世界の町の端に連れて行かれる。B-d. 牛飼いを恐れさせる二頭のライオンを退治する。B-e. 水を支配する龍を退治して生け贄の大臣の娘を救出する。B-b. シーモルグの雛をねらう龍を倒す。B-f. シーモルグによって地上世界に連れ帰られる。B-c. 別れ際に、燃やすとシーモルグを呼べる羽をもらう。VI-f. シーモルグの羽を顔にあてると老人になった顔が若返る。VI-g. ディーヴたちを許す。VI-h. 娘と結婚する。

(Anjavī Vol.1-1. 187-200)

【類話5】「林檎の木とディーヴ」(採話地：テヘラン)

I-a. 三人の王子を持つ王がいる。I-b. 王は飼っている鸚鵡の里帰りの土産として林檎の種を得る。I-c. 王は種を植える。I-d. 林檎が実る。I-e. 毎晩林檎が盗まれる。II-a. 長男と二男が居眠りをして番に失敗する。II-b. 三男(エブラーヒーム)が空から現れたディーヴの腕を切る。II-c. 血の跡を追って井戸に着く。II-d. 兄二人は井戸に熱くて入れない。II-e. エブラーヒームは井戸に入る。II-f. 井戸を降りる途中で火を吐く龍を殺す。III-a. 娘を捕らえるディーヴを命の瓶を割ることによって殺す。III-b. 娘(二人目)を捕らえる二匹目のディーヴを命の瓶を割ることによって殺す。III-c. 娘(三人目)を捕らえる三匹目のディーヴを命の瓶を割ることによって殺す。A. 娘から金の鶯の入った金の籠と勝手に洗濯する金のたらいを得る。IV. 娘たちは井戸から出る。V. エブラーヒームは兄二人に騙されて井戸に残される。B-a. 白と黒の羊が現れるが娘の指示とは逆に黒に乗ってしまい七階下の世界に落ちる。B-e. 水を支配する龍を退治する。B-f. シーモルグによって地上世界に連れ帰られる。VI-a. 金細工師の弟子になる。VI-b. 娘が結婚の条件に金の鶯の入った金の籠と勝手に洗濯する金のたらいを求める。VI-c. エブラーヒームが娘にもらった金の鶯の入った金の籠と勝手に洗濯する金のたらいを用意するが兄の手柄になる。VI-f. 金細工職人のエブラーヒームが王宮に呼ばれ娘と再会する。VI-g. 兄たちの罰を免除する。VI-h. 娘と結婚する。

(Anjavī Vol.1-1. 214-223)

【類話6】「マレク・ジャムシードの物語」(採話地：オルミエ)

I-a. 三人の王子を持つ王がいる。I-d. 王は一年に一度実のなる食べると永遠に若くなれる林檎の木を持つ。I-e. 毎年林檎が盗まれる。II-a. 長男と二男が居眠りをして番に失敗する。II-b. 三男(マレク・ジャムシード)がディーヴに傷を負わせる。II-c.

血の跡を追って井戸に着く。II-d. 兄二人は井戸に熱くて入れない。II-e. マレク・ジャムシードは井戸に入る。III-a. 娘（上の姉）を捕らえるディーヴを命の瓶を割ることによって殺す。III-b. 娘（二番目の姉）を捕らえる二匹目のディーヴを命の瓶を割ることによって殺す。III-c. 娘（末娘）を捕らえる三匹目のディーヴを命の瓶を割ることによって殺す。IV. 娘たちは井戸から出る。V. マレク・ジャムシードは兄二人に騙されて井戸に残される。A. 井戸の中で一羽の金のニワトリと十二羽の金のひよこの載った金の盆、白い服と白い馬、剣などの財宝を見つける。B-e. 水を支配する龍を退治する。B-b. シーモルグの雛をねらう蛇を倒す。B-f. シーモルグによって地上世界に連れ帰られる。B-c. 別れ際に、燃やすとシーモルグを呼べる羽をもらう。VI-a. 金細工師の弟子になる。VI-b. 娘は結婚の条件に一羽の金のニワトリと十二羽の金のひよこの載った金の盆を求め。VI-c. シーモルグを呼んで一羽の金のニワトリと十二羽の金のひよこの載った金の盆を用意させるが兄の手柄になる。VI-f. 白い服と白い馬をシーモルグに用意させ、結婚式当日の競馬で勝ち、娘と再会する。VI-g. 兄たちを許す。VI-h. 娘と結婚する。

(Anjavī Vol.1-1. 223-230)

【類話7】「金の卵のニワトリ」(採話地：エシュケバルバーラー)

I-a. 三人の王子を持つ王がいる。I-d. 王は庭園に花を持つ。II-a. 長男と二男が居眠りをして番に失敗する。II-b. 三男（名前は記されず王子と表現される）が盗人の腕を切る。II-c. 血の跡を追うと石があり、その下に穴がある。II-d. 兄二人は穴に熱くて入れない。II-e. 王子は穴に入る。A. 井戸の底で金の卵を生むニワトリと金の赤子の入った金の揺りかごを見つける。III-a. 娘を捕らえるディーヴを剣で殺す。IV. 娘は井戸から出る。V. 王子は兄二人に騙されて井戸に残される。B-e. 水を支配する龍を退治して生け贄の王女を救出する。B-b. シーモルグの雛をねらう蛇を倒す。B-f. シーモルグによって地上世界に連れ帰られる。B-c. 別れ際に、燃やすとシーモルグを呼べる羽をもらう。VI-a. 金細工師の弟子になる。VI-b. 娘は結婚の条件に金の卵を生むニワトリと金の赤子の入った金の揺りかごを求める。VI-c. シーモルグを呼んで金の卵を生むニワトリと金の赤子の入った金の揺りかごを用意する。VI-f. 金細工屋で王と娘と再会する。VI-h. 王位を継ぎ、娘と結婚する。

(Sadat Ishkivari 101-105)

【類話8】「マレク・モハンマド」(採話地：アーザルバーイジャン)

I-a. 三人の王子を持つ王がいる。I-b. 王は飼っている鳩の里帰りの土産として林檎の種を得る。I-c. 王は種を植える。I-d. 金の林檎が実る。I-e. ある日金の林檎が盗まれる。II-a. 長男と二男が居眠りをして番に失敗する。II-b. 三男のマレク・モハンマドがディーヴの腕を切る。II-c. 血の跡を追って井戸に着く。II-d. 兄二人は井戸に熱くて入れない。II-e. マレク・モハンマドは井戸に入る。III-a. 娘を捕らえるディーヴを命の瓶を割ることによって殺す。III-b. 娘（二人目）を捕らえる二匹目のディーヴを命

の瓶を割ることによって殺す。Ⅲ-c. 娘（三人目）を捕らえる三匹目のディーヴを命の瓶を割ることによって殺す。A. 金のニワトリと金の臼をみつける。（後に記載がある）Ⅳ. 娘たちは井戸から出る。Ⅴ. マレク・モハンマドは兄二人に騙されて井戸に残される。B-a. 白と黒の羊が現れるが娘の指示とは逆に黒に乗ってしまい暗黒界に落ちる。B-b. シーモルグの雛をねらう蛇を倒す。B-f. シーモルグによって地上世界に連れ帰られる。B-c. 別れ際に、燃やすとシーモルグを呼べる羽をもらう。Ⅵ-a. 金細工師の弟子になる。Ⅵ-b. 娘は結婚の条件に金のニワトリを求める。Ⅵ-c. シーモルグを呼んで金のニワトリを用意する。Ⅵ-d. 娘は結婚の条件に金の臼を求める。Ⅵ-e. シーモルグを呼んで金の臼を用意する。Ⅵ-f. 赤い服と赤い馬をシーモルグに用意させ、結婚式の当日に花婿である兄を殺す。さらに緑の服と緑の馬をシーモルグに用意させ、結婚式の当日に花婿であるもう一人の兄を殺し、娘と再会する。Ⅵ-h. 王位を継ぎ娘と結婚する。

(Bihrangī 110-122)

Iの「主人公は超自然的な出生で超自然的強さを持つ」に対応するエピソードでは、I-aに関しては、8話のうち類話4では主人公は老夫婦の息子とされるが、他の7話では王子とされる。王子とされる7話のうち、6話において主人公は三人の王子の末っ子とされ、残る1話で主人公だけ母親が違いとされる。いずれにしても、主人公だけが他の兄弟に比べて弱い立場であることが示される。強さや勇敢さに関しては、類話1, 類話3, 類話4の3話において述べられているが、超自然的に強いという記述はない。冒頭部分で主人公が老夫婦の息子とされる類話4は、ディーヴ（悪魔）を家来にする（I-g）など他の7話と異なるプロットを持っている。

木の実のモチーフ（I-d）があるのは8話中7話である。類話4には木の実のモチーフは含まれない。木の実のモチーフを持つ7話のうち2話には、木の実の由来（I-b, I-c）について述べられている。木の実に関しては、林檎とされるものが5例であるほか、石榴、あるいは花とされるものもあり、木の実の種類は限定されない。

よって、エピソードIにおけるモチーフの構成は、I-a, I-d, I-eが核となるが、類話によってはI-d, I-eが欠如しているものがあり、I-b, I-cを含むものがあると考えられる。また、上述の通り、I-d, I-eの代わりにI-f, I-g, I-hが含まれる類話4がある。木の実の由来（I-b, I-c）を含む類話5はテヘランでの採話、類話8はアゼルバイジャン地方での採話であるので、このモチーフは地域的特徴ではなく、本来含まれるべきものが他の6話において欠如しているとも考えられる。しかし、事例が少ないため断定はできない。

Ⅱの「転落」に対応するエピソードでは、まず兄弟あるいは仲間の失敗により大切なものを奪われるというモチーフがある（Ⅱ-a）。これに対し主人公は後に退治することになる魔物に手傷を負わせる（Ⅱ-b）。次に井戸への降下に関するプロットがある。8話とも兄弟あるいは家来が井戸あるいは穴に熱さのために入ることができないが（Ⅱ-d）、主人公のみが入る（Ⅱ-e）。Ⅱ-a, Ⅱ-b, Ⅱ-c, Ⅱ-dは8話全てに含まれる。類話5に井戸を

降りる途中で主人公は龍を退治するモチーフがある(Ⅱ-f)。これは他の7話の類話にはないもので、付加されたものと見なすことができる。おそらく、イランでは一般的である井戸に龍が棲むという伝承が作用し、例外的に語られたのではないかと考える⁴⁾。

Ⅲの「捕らわれた娘たち」に対応するエピソードでは、8話のうち7話で娘を捕らえる魔物はディーヴ(悪魔)とされ、類話3のみにおいて龍とされる。この文脈で現れる魔物は概ねディーヴであると特定できるが、Ⅱの場合と同様に、井戸に龍が棲むという伝承が例外的に類話3に影響したのではないかと考える。8話とも主人公は魔物を倒すが、娘が三人とされるのは8話中6話で、一人とされるのは2話である。ここにおける三の繰り返しの有無はⅥの「再認識」に影響するが、ストーリー全体に影響するような決定的なものではない。

Ⅳの「救出」及びⅤの「裏切られた主人公」に対応するエピソードは、8話とも目立った相違点はない。娘(たち)が先に兄弟あるいは仲間によって井戸から引き上げられるが、残った主人公だけが兄弟あるいは仲間裏切られて井戸の底に残される。

後のⅥの「再認識」に対応するエピソードにおいて主人公が再認識される時に使用される印(本人である証拠となるもの)が主人公によって発見されるが、場面は一定していない。類話7ではⅡとⅢの間、類話5と類話8ではⅢとⅣの間、類話2と類話6ではⅤとⅥの間においてAの「印の発見」が見られる。類話1、類話3、類話4にはAのモチーフはない。印はいずれも金あるいは宝石でできたものであるが、類話2、類話5、類話7においては印となる品から金や財宝が出てくるとされるなど超自然的な呪具としての属性が付加されている。Aのモチーフは8話のうち5話に見られることから、付加されたものではなく、残りの3話において欠如していると考えた方が自然である。必ずしも必要な要素ではなく、ストーリーの流れ上あったほうが合理的であるという程度のものであるために、位置が一定せず、欠如することもあると考える。ただし、Aの位置は、ストーリーの合理性から言えばⅢとⅣの間が自然である。

Bの「地下世界での冒険」のエピソードは、アアルネ・トンプソン式のエピソード構成にはない。しかし、同様にAT301に分類される甲賀三郎譚などにも似たエピソードがあり⁵⁾、イランの事例だけに見られる特徴ではない。類話3を除く7話において、B-a、B-d、B-e、B-b、B-f、B-cの順序で語られていることがわかる。(但し、類話5ではB-dとB-b、類話6と類話7ではB-aとB-d、類話8ではB-dとB-eがそれぞれ欠如)。類話3については、各要素の順序が入れ替わってはいるものの、物語全体におけるBの役割は十分に果たされていることから、この話を語る際に話者が混乱したと考えるのが合理的である。

Ⅵの「再認識」に対応するエピソードでは、主人公は仕立屋あるいは金細工師の弟子になり(Ⅵ-a)、Aで得た印をシーモルグに頼ることによって示し、主人公が本物であることが認識される(Ⅵ-b、Ⅵ-c)が、この段階ではまだ主人公の確認にはいたらない。類話2と類話8ではⅥ-b、Ⅵ-cが繰り返される(Ⅵ-d、Ⅵ-e)。類話3および類話4はⅥ-a、Ⅵ-b、Ⅵ-cのプロットがないが、欠如したものと考えられる。さらにⅥ-fにおいて、主

人公が本物であることが確認されるが、このときの主人公の真偽の確認の方法は一定せず、再会するだけのもの、競馬や競技に勝つことによって改めて認識されるもの、象徴的な色（黒、赤、白、緑）の衣装で力づくで娘を奪い返すものの3つのパターンがあるが、細部まで同じものは一組もない上、採話地による傾向も見られない。VI-g の仲間への罰は類話7 および類話8 で欠如している。結末のVI-h は8話とも同様に主人公と娘との結婚である。

8話の類話のモチーフ比較によって、付加されている要素を省き、欠如しているものを補うことによって、標準的と思われる「林檎の園」型の全体のエピソードとモチーフの構成を導き出すと以下ようになる⁽⁶⁾。

【「林檎の園」型の標準型】

I-a. 三人の王子を持つ王がいる。(I-b. 王は飼っている鳥の里帰りの土産として木の実の種を得る。I-c. 王は種を植える。) I-d. 庭園に木の実が実る。I-e. 木の実が盗まれる。II-a. 二人の兄弟が居眠りをして木の実の番に失敗する。II-b. 末っ子、あるいは一人だけ母親が違う主人公が番に成功し魔物に手傷を負わせる。II-c. 血の跡を追って井戸に着く。II-d. 二人の兄弟は熱くて井戸に入れない。II-e. 主人公が井戸に入る。III-a. 娘を捕らえるディーヴを殺す。(III-b. 二人目の娘を捕らえるディーヴを殺す。III-c. 三人目の娘を捕らえるディーヴを殺す。) A. 印となる宝物を見つける。IV. 娘たちを井戸から助け出す。V. 兄弟に裏切られ井戸の底に残される。B-a. 白と黒の羊、あるいは牛に乗り間違えて地下国へ落ちる。B-d. 牛飼いが恐れるライオンを退治する。B-e. 水を支配する龍を退治し生け贄の王女を救う。B-b. シーモルグの雛を狙う蛇を退治する。B-f. シーモルグの背に乗ってこの世に戻る。B-c. シーモルグから羽を得る。VI-a. 金細工師、あるいは仕立屋の弟子になる。VI-b. 娘は結婚の条件として主人公だけが用意できる宝物を求める。VI-c. シーモルグの助けて宝物を用意する。(VI-d. 娘は結婚の条件として再び主人公だけが用意できる宝物を求める。VI-e. シーモルグの助けて宝物を用意する。) VI-f. 主人公と娘が直接再会すること、あるいは競技に勝つこと、あるいは力づくで奪い返すことにより主人公が本物であることが認識される。VI-g. 兄弟たちは許される。VI-h. 主人公と娘が結婚する。

さて、「林檎の園」型の8話の類話から導き出された上記の標準型を AT301 の話型と比較することにより、「林檎の園」型の民話が AT301 と分類される根拠およびイランの類話の特徴を以下に示す。

「I. 主人公は超自然的な出生で超自然的強さを持つ」に対応する主人公の超自然的な出生に対応するモチーフ等はない。超自然的とまでは解釈できないものの勇敢さと強さについての記述は3話において見られる。「II. 転落」、「III. 捕らわれた娘たち」、「IV. 救出」、「V. 裏切られた主人公」、「VI. 再認識」に関しては、AT301 の話型に対応していると言える。ただし、A で示した不思議な宝物の発見と、B で示した地下国での冒険のエピソード

だが、基準となる AT301 型の構成に付加されており、この二点が特徴と言える。しかし、全体として AT301 としてのモチーフ構成の順序に影響はなく、この民話は AT301 に分類できると考える。

さらに、「林檎の園」型の事例の情報だけを基に細分すれば、類話 2 は盗まれた娘になる木の実を奪い返すことを出立の目的としているため AT301A 型と分類できる。しかし、類話 2 を除く 7 話に関しては、A 型あるいは B 型の判断は微妙である。福田晃氏は、三番目の末の王子が主人公となる類話 3、類話 5、類話 6、類話 7、類話 8 と基本的に同じモチーフ構成を持つコーカサスの AT301 型の事例を挙げ、AT301B 型に近いとしている⁽⁷⁾。一方、三原幸久氏の説明に従えば、類話 3、類話 5、類話 6、類話 7、類話 8 の 5 話も AT301A 型に分類可能である⁽⁸⁾。これらの 5 話の事例を取って細分するなら、AT301B の要素を含んだ AT301A であると述べるに留めておく。また、類話 1 と類話 4 に関してはどちらにも分類できない。

3. 「半身小僧」型の類話のモチーフ比較

同様に、筆者が確認した「半身小僧」型の 5 話の類話の梗概を示し、モチーフの分析を行う。

【類話 1】「馬に乗る半身小僧」(採話地：ヤズド)

I-a. 子のいない破産した商人がいる。I-b. 商人は托鉢僧にキビを貰う。I-c. 不信心のため、朝起きてみるとうじゃうじゃ子供がいる。靴で順番にはたき殺す。I-d. 二人の金髪の子供と一人の体が半分だけの子供が生き残る。II-a. 商人の財を奪ったディーヴ退治をすることになり、金髪の兄弟二人が行く。II-c. 兄弟二人は捕らえられ、井戸に閉じ込められる。III. 半身小僧がディーヴ退治に行き、娘を捕らえるディーヴの命のガラスを壊しディーヴを倒す。IV. 娘を助け、財宝を得る。V. 井戸に入って兄弟二人を助ける。二人は娘と半身小僧を井戸に閉じ込める。VI-a. 娘と半身小僧は宝箱に隠れて家まで帰り、二人の策略はばれる。VI-b. 兄弟は許される。VI-c. 半身小僧は、娘と結婚する。

(Anjavī Vol.1-2. 327-332)

【類話 2】「極貧の男」(採話地：ギーラーン)

I-a. 三人の妻と三つの庭と三頭の馬をもつ極貧の男がいる。I-b. 男は光る男に九個の林檎を貰う。I-c. 妻たちと馬たちと庭園に三つずつ割り当てるとそれぞれ子供と木の実ができる。I-d. 子供、子馬、木の実ができるが三番目の妻の子は林檎を半分しか食べなかつたので一本足である。II-a. 兄二人がディーヴを倒しに行く。II-c. 兄二人は恐れて帰る。III. 娘を捕らえるディーヴを倒す。IV. 井戸に捕らえられている娘を助け、財宝を得る。V. 兄二人に裏切られて、娘とともに井戸に残される。VI-a. 娘と一本足の弟は宝の袋に隠れて家まで帰り、二人の策略はばれる。VI-c. 父親は三男に家を継がせ、

娘とも結婚させる。

(Anjavī Vol.1-2. 324-326)

【類話 3】「半身小僧」(採話地：ナーイーン)

I-a. 三人の妻を持つ子のない王がいる。I-b. 托鉢僧に林檎を貰う。I-c. 妻たちが食べ、三人の子供が生まれる。I-d. 林檎を半分しか食べなかった妻の子は体が半分しかない。II-a. マーザンダラーンのディーヴを退治しに半身小僧以外の兄弟二人は出発する。II-b. 途中で会った羊飼いやラクダ飼いや老女の難題を解けない。II-c. 兄弟二人はディーヴ退治に失敗して捕らえられる。II-d. 半身小僧は、鶏に乗って出発し、羊飼いやラクダ飼いや老女の難題を解く。III. 三人の娘を育てるディーヴを倒す。IV. 娘を連れだし、財宝を得る。V. 助けた兄弟に裏切られ井戸に置き去りにされる。VI-a. 父王がマーザンダラーンにやって来て、兄弟たちの策略がばれる。VI-c. 三人の娘はそれぞれ三人兄弟と結婚する。

(Anjavī Vol.1-2. 332-345)

【類話 4】「半分小僧⁹⁾」(採話地：ネイリーズ)

I-a. 七人の妻をもつ子のない王がいる。I-b. 托鉢僧に七つの林檎をもらう。I-c. 妻たちが食べ、七人の男の子が生まれる。I-d. 林檎の半分をニワトリに食べられた妻の子は体が半分である。II-a. 半分小僧以外の兄弟の六人はディーヴ退治に出かける。II-b. 途中、羊飼いや水車番とラクダ飼いや出会い、難題を出されるが解けない。II-c. ディーヴに山に幽閉される。II-d. 半分小僧は羊飼いや水車番、ラクダ飼いやの難題を解く。III. 娘をもつディーヴを退治し、兄弟たちを助ける。IV. 娘を連れだし、財宝を得る。V. 兄弟たちに井戸に置き去りにされる。VI-a. 箱に隠れて家まで帰り、二人の策略はばれる。VI-b. 兄弟たちは追放される。VI-c. 半分小僧が王位を継ぐ。

(Anjavī Vol.1-2. 345-347)

【類話 5】「半身小僧」(採話地：ヤズド)

I-a. 三人の妻をもつ子のない男がいる。I-b. 托鉢僧に三つの林檎をもらう。I-c. 妻たちが食べ三人の男の子が生まれる。I-d. 林檎の半分をニワトリに食べられた妻の子は一本足である。II-a. 一本足の少年以外の二人は父親のお金を貰いに(悪い)王に会いに行く。II-b. 途中、牛飼いや羊飼いや水車番に会い、難題を課されるが失敗する。II-c. 兄弟は王宮で眠っているあいだに王(娘がいる)に殺される。II-d. 一本足の少年は、牛飼いや羊飼いや水車番の難題を解く。III. 一本足の少年は王宮で眠らず、逆に王を騙し打ちにする。IV. 財宝を手に入れる。VI-c. 一本足の少年は、両親と幸せに暮らした。

(Anjavī Vol.1-2. 348-352)

I の「主人公は超自然的な出生で超自然的強さを持つ」に対応するエピソードでは、5

話の類話すべてにおいて超自然的出生のモチーフがある。冒頭のI-aにおける子のない男が木の実を得るというモチーフで、男が王とされるものが2話、商人が1話、極貧の男が1話、ただの男とされるものが1話であり、必ずしも王である必要はないことがわかる。木の実を渡す人物は、5話のうち4話で托鉢僧とされ、1話で光る男とされる。托鉢僧が民話においてあの世とこの世をつなぐ異人として描写される例は多く、ここでも同様の意味で用いられていると考える。イラン民話ではあの世の者がこの世に現れる場合には光ると描写される事例⁽¹⁰⁾があり、このモチーフにおける光る男もあの世の者であることを表していると考えられる。受け取る木の実は5話のうち4話で林檎、1話でキビである。いずれにしても、子のない男が托鉢僧などの異人から不思議な木の実あるいは穀物を得るという構図は明らかである。I-c, I-dにおいて男に三人あるいは七人の子供ができるが、そのうちの一人が主人公となる。ここで主人公は、5話のうち3話で体が半分、2話で一本足とされる。隻眼であることと同様に特別な力を持っていることを示すと思われるが、Iにおいて具体的に呪術的な力を示すことはない。Iでは、少年が超自然的に誕生して、実際の腕力ではなく超自然的な力を持つことを暗示していると言える。

IIの「転落」に対応するエピソードでは、井戸などで垂直移動するのではなく、悪者の城へ行くことになる。ディーヴの城へ行く事例が4話、悪い王の城に行く事例が1話である。AT301における「転落」エピソードは『昔話の型』においても垂直移動を必要とするわけではなく、森の中の一軒家にたどりつく、あるいは怪物のいる橋に至る等のモチーフもこの中に含まれるため、このエピソードはAT301に対応していると考えられる。II-aにおいて、まず主人公以外の兄弟が悪者の城へ行く。5話のうち3話でこの兄弟たちは道中で出会う水車番、牛飼、羊飼などが出ず難題を解けないというモチーフ(II-a, II-b)が見られる。難題のモチーフのある3話に対応して、主人公による難題解決のモチーフがある(II-d)。さらに、5話全てにおいて兄弟たちは悪者退治にも失敗する(II-c, II-d)。

III及びIVのエピソードで、主人公がディーヴのところにいる娘を救出するというモチーフを持つものは5話のうち4話(類話1, 類話2, 類話3, 類話4)である。ただし、このうち1話(類話4)では、娘はディーヴの一味として描かれ、VIの「再認識」のエピソードでも結婚しない。残りの1話(類話5)でも悪い王に娘がいるが、連れ去る記述はなく、財宝のみを得る。このディーヴのもとにいる娘のモチーフに関しては、捕らえられているとされるほかに、ディーヴの一味であるとされる場合があるとも考えられるが、ディーヴの一味であった場合、これに対応して何らかの罰を受けるモチーフがあってもおかしくない。しかし、類話4および類話5には娘への罰のモチーフはない。現状では、類話1, 類話2, 類話3に見られるディーヴに捕らわれた娘を救出して結末で主人公と結婚するというプロットが完全なもので、類話4では結婚のモチーフが、類話5では救出および結婚のモチーフが欠如していると考えられるほうが自然であると考えられる。

Vの「裏切られた主人公」に対応するエピソードは、5話の内、兄弟たちがすでに殺されて存在しない類話5を除き、4話において主人公は兄弟に裏切られ、井戸に取り残され

る。類話 1 と類話 2 では主人公だけでなく娘も取り残される。兄弟がこの時点ですでに死んでいる類話 5 は前述の通り娘を救出するモチーフもなく、全体的にストーリーに合理性が欠けている。

VI の「再認識」に対応するエピソードには、類話 5 を除く 4 話に兄弟の策略を暴露するモチーフ (VI-a) が見られる。このうち、宝の箱や袋に主人公が隠れ、これを宝と思って持ち帰った兄弟が父の前で開けることで兄弟の悪事が暴露されるもの、つまり、兄弟の策略に対し、策略で反撃するものが類話 1, 類話 2, 類話 4 に見られる。父が様子を見に来ることで策略がばれる類話 4 は一般的なものではないと考える。兄弟たちへの罰に関しては、類話 1 では許されるが、類話 4 では追放される。残りの 2 話（この時点で兄弟が存在しない類話 5 を除く）には罰に関する記述はないため、このモチーフが一般的なものかどうかはわからない。結末は、3 話において主人公は助けた娘と結婚し、世継ぎとなる。類話 4 では、娘はエピソードⅢでディーヴの一味とされるので結婚するモチーフはなく、王位を継ぐのみである。類話 5 は、娘を助けるモチーフがないため、結婚するモチーフもない。

「林檎の園」型の場合と同様に、標準的と思われる「半身小僧」型の全体のエピソードとモチーフの構成を導き出すと以下ようになる

【「半身小僧」型の標準型】

I-a. 子の無い夫婦がいる。I-b. 托鉢僧などの異人に木の実あるいは穀物をもらう。I-c. 三人あるいは七人の子供が産まれる。I-d. 子供の一人は、体が半分あるいは一本足である。II-a. 主人公を除く兄弟がディーヴ退治に出発する。II-b. 兄弟は途中で出会った者たちの出す難題を解けない。II-c. 兄弟はディーヴ退治に失敗する。II-d. 主人公が出発し、途中で出会った者たちの出す難題を解く。Ⅲ. 娘を捕らえるディーヴを倒す。IV. 娘を助け財宝を得る。V. 兄弟たちに騙され、井戸の底に置き去りにされる。VI-a. 主人公は宝の箱に隠れて帰り、兄弟の策略がばれる。VI-c. 娘と結婚し、父の後を継ぐ。

次に「半身小僧」型の 5 話の類話から導き出された上記の標準型を AT301 の話型と比較することにより、「半身小僧」型の民話が AT301 と分類される根拠を示す。

「I. 主人公は超自然的出生で超自然的強さを持つ」に対応して超自然的出生に関する記述が明確である。また、呪術的力を暗示させる一本足や半身という記述がある。「II. 転落」、「Ⅲ. 捕らわれた娘たち」、「IV. 救出」、「V. 裏切られた主人公」、「VI. 再認識」に関しては、前述の通り対応している。すなわち、「半身小僧」型は、6 つのエピソードが完全に AT301 に対応していることがわかる。さらに、「半身小僧」型にはエピソード I で超自然的出生に関する記述があることから、「林檎の園」型に比べて、より AT301 に合致すると言える⁽⁴⁾。

さらに、「半身小僧」型の事例の情報だけを基に細分すれば、異常誕生の要素があり、王

女の探索や果実の探索を目的としていないことから AT301B 型であると判断できる。

4. 「林檎の園」型と「半身小僧」型の比較

「林檎の園」型と「半身小僧」型はともに AT301 型と分類されることがわかった。さらに各々の型のみを基に細分すると、前者のうち 1 話が AT301A 型、5 話は AT301B 型の要素を含んだ AT301A 型というしかないような微妙なもの、2 話は分類できないことがわかった。ところが、後者は AT301B 型と判断できることがわかった。

「林檎の園」型の 8 話のうち 6 話で AT301A 型の要素があることから、「林檎の園」型と「半身小僧」型の違いは、一見、金の果実の探索や王女救出を目的とする A 型と異常誕生を強調する B 型の違いのように見える。しかし、イランの「林檎の園」型と「半身小僧」型の違いを A 型と B 型の違いと断定することは難しいと考える。AT301A 型と AT301B 型の相違はあくまで冒頭部の相違であり、それ以外の部分に大差があることは想定されていない¹²⁾。ところが、「林檎の園」型と「半身小僧」型の間にはエピソードの有無や物語の長さなどの根本的な違いがあり、冒頭部分の相違だけでは説明しきれものではない。そこで、これ以外に説明できる根本的な相違がある可能性を求めて、さらに「林檎の園」型と「半身小僧」型の標準型に基づいてモチーフの比較を行う。

エピソード I 「超自然的出生あるいは強さ」では、「林檎の園」型が主人公の強さや勇敢さを強調するのに対し、「半身小僧型」では超自然的強さについても暗示されているが、主人公の超自然的出生に重点が置かれている。エピソード II 「転落」では、いずれの型でもディーヴに出会う前に仲間が失敗し、主人公が成功するというモチーフの組み合わせがある。「林檎の園」型では、「二人の兄弟が居眠りをして果実の番に失敗する。」(II-a)と「末っ子、あるいは一人だけ母親が違う主人公が番に成功し魔物に手傷を負わせる。」(II-b)の組み合わせである。これに対し、「半身小僧」型では、「兄弟は途中で出会った者たちの出す難題を解けない。」(II-b)と「主人公が出発し、途中で出会った者たちの出す難題を解く。」(II-d)の組み合わせである。「林檎の園」型では、主人公は勇敢さと忍耐強さによって成功するのに対し、「半身小僧」型では、主人公はその機知によって成功することがわかる。エピソード III, IV, V では、「林檎の園」型と「半身小僧」型とも、主人公がディーヴを倒して娘あるいは財宝を得た後、仲間が井戸などに置き去りにされる。モチーフ構成上、二つの型の間には大きな差はないと言える。エピソード B 「地下世界での冒険」は「林檎の園」型にだけある。エピソード VI 「再認識」では、「林檎の園」型と「半身小僧」型とも、仲間の嘘が暴露され、主人公が正しいことが証明される。「林檎の園」型では主人公の勇敢さ故に所持する印の品の提示によって、または、特殊な技巧で魅了して、あるいは実力で奪い返して等、主人公の何らかの卓越した能力を示す行為によって再認識されるが、「半身小僧」型では、宝箱に隠れるといった主人公の機知が再認識の糸口となる。

これらの比較から「林檎の園」型と「半身小僧」型の相違点は大きく分けて三点あることがわかる。第一に「超自然的出生」のモチーフの有無、第二に「地下世界での冒険」のエピソードの有無、第三にいわば英雄型と道化型と言える主人公の属性の相違である。こ

これらの三点の相違点のうち、「半身小僧」型にのみ見られる「超自然的出生」のモチーフは、主人公がトリックスターの要素を持つために必要な「半身」あるいは「一本足」という身体的条件の伏線的モチーフであり、主人公の道化的属性に集約できる。また、「林檎の園」型にのみ見られる「地下世界での冒険」のエピソードは、そこに含まれる龍退治や猛獣退治が主人公の勇敢さや強さゆえの英雄的行為であることから主人公の英雄性をさらに示す働きがあると考えられ、主人公の英雄的属性に集約できる。

「林檎の園」型の主人公は勇敢で強く、忍耐力によって難題を乗り越えるのに対し、「半身小僧」型ではトリックスター的な機知によって難題を乗り越えるのである。端的に言えば、「林檎の園」型と「半身小僧」型の違いは英雄型と道化型の違いなのである。

5. イランの魔法昔話における英雄型と道化型

「林檎の園」型と「半身小僧」型がイランで別話型と認識されている理由は英雄型と道化型の違いであることが明らかになったが、英雄型と道化型という二つのタイプは AT301 においてのみ見られる現象ではない。イランの少年が主人公となる魔法昔話全体に広く見られる。モチーフ分析等の詳細な説明は省略するが、冒頭で述べたアンジャヴィー編『イランの民話』における少年が主人公になる魔法昔話で AT 分類可能な 92 話を例にとり、描写される主人公の属性に焦点を絞って判断すると、英雄型と考えられるものは 53 話、道化型と考えられるものが 38 話となる。また、判別できないものが 1 話ある。次に各型の題名と AT 番号の一覧を示す⁽¹³⁾。

【英雄型の題名と AT 番号一覧】

番号	民話の題名	AT 番号
1	エブラーヒーム王子と冷血王女	AT516
7	ベムーニーとエスカンダル	AT408
25	マレク・モハンマドと片足の悪魔	AT550
26	真珠の葉	AT550
27	女王と第三王子	AT550
28	王様と王子	AT550
29	林檎の園	AT301
30	シーモルグの物語	AT301
31	マレク・ジャムシードの物語	AT301
32	英雄アフマド	AT301
33	金の鳥	AT550
34	リンゴの木と悪魔	AT301
35	マレク・ジャムシードの物語	AT301
59	ゴルはサノウバルに何をしたか	AT461
60	ゴルはサノウバルに何をしたか	AT461

61	ゴルはサノウバルに何をしたか	AT461
63	ゴルはサノウバルに何をしたか	AT461
69	上手に話をする鳥	AT707
70	上手に話をする鳥	AT707
71	金の前髪の少年	AT707
72	中国の雄鳥	AT707
73	金の前髪の少年と竜涎香のようなおさげの少女	AT707
74	金の前髪の少年と真珠の歯の少女	AT707
75	上手に話をする鳥	AT707
76	上手に話をする鳥	AT707
77	シャハルザード	AT707
78	中国の町の娘	AT554
79	中国の町の娘	AT554
80	漁師のアフマド	AT513
82	ライオンの上のライオンの皮の中のライオンの乳	AT554
83	獵師のモハンマド	AT513
86	バラウケとアーヴエンダースとシェレングエンダース	AT513
105	オレンジとシトロンの娘	AT408
106	オレンジとシロン	AT408
107	オレンジとシロン	AT408
108	七つのオレンジとシロン	AT408
109	継母の娘	AT408
110	オレンジとシロン	AT408
111	オレンジ姫	AT408
112	妖精つまり 40 のザクロの娘	AT408
113	カリーメ・ハイヤートの娘	AT408
114	胡瓜から生まれた三人の娘	AT408
115	胡瓜の小夜鳴鳥	AT408
116	オレンジとシロン	AT408
117	胡瓜の実の娘	AT408
118	胡瓜の娘	AT408
119	六つのザクロ	AT408
122	三人の恋人	AT653
150	妖精王のユーソフとマレク・アフマド	AT552
151	妖精王のユーソフとマレク・アフマド	AT552
161	ジュンティーグとチェルギース	AT302
189	デルアーラームと王子	AT516

191 エブラーヒーム王子とエスマーイール王子 AT303

【道化型の題名一覧】

番号	民話の題名	AT 番号
36	禿と悪魔	AT571
37	禿と悪魔	AT571
38	禿と悪魔	AT571
56	木掘りの少年とモッラー	AT325
57	バーボルヘンド	AT325
58	羊飼いの息子の物語	AT325
62	ゴルチェフレ夫人	AT461
84	キャチャル（禿）さん	AT513
85	ゲリーメ・ゲーシュの王	AT467
88	少年と狼	AT715
89	半分おんどり	AT715
90	えんどう豆さん	AT715
91	おんどりさん	AT715
92	極貧の男	AT301
93	馬に乗る半身小僧	AT301
94	半身小僧	AT301
95	半分小僧	AT301
96	半身小僧	AT301
97	禿とスレイマンのソフレと小枝と指輪	AT563
98	カラスと豆	AT563
99	狼と食布	AT563
100	壺から出てこい、壺にもどれ	AT563
101	そら豆作りのアリー	AT563
102	ひょうたんから出てこい	AT563
103	鍋よ、煮えろ	AT563
126	緑の太鼓をもつ猫	AT465
127	アリーの愛	AT465
128	怠け者	AT467
129	禿さん	AT467
130	少年ハサン	AT467
132	牛飼いのエブラーヒーム	AT465
133	夢占い	AT465
138	小悪魔さん	AT327

139	やんちゃ坊主	AT327
179	小人	AT327
212	ザンギーとゼランギー	AT315
213	悪魔の娘	AT315
214	鉄の歯の王女	AT315

【判別できないもの】

番号	民話の題名	AT 番号
190	若さの秘密	AT726

さらに、これら民話を AT 番号で整理すると、以下のようになる。

・英雄型になる話型(括弧内は話数。英雄型と道化型の双方に現れる話型に下線を施した。)
AT301(6), AT302(1), AT303(1), AT408(16), AT461(4), AT513(3), AT516(2), AT550
 (5), AT552(2), AT554(3), AT653(1), AT707(9)

・道化型になる話型
AT301(5), AT315(3), AT325(3), AT327(3), AT461(1), AT465A(4), AT467(4), AT513
(1), AT563(7), AT571(3), AT715(4)

・判別できないもの
 AT726(1)

英雄型になる 12 の話型のうち英雄型にしか見られないものが 9 話型、道化型になる 11 話型のうち道化型にしか見られないものが 8 話型と、どちらか一方においてのみ見られる話型が大半である。しかし、AT301 と AT461 と AT513 は英雄型と道化型の双方に見られる。このことから英雄型と道化型の違いは話型という概念に必ずしも対応しないことがわかる。なかでも、AT301 は英雄型が 6 話に対し道化型が 5 話と偏りが見られず、この現象が顕著である。

6. おわりに

「林檎の園」型民話と「半身小僧」型民話の違いは、一見、AT301A 型と AT301B 型の違いのように見えるが、英雄型と道化型の違いという説明が最も相応しいことがわかった。さらに、少年が主人公となるイランの魔法昔話全体が、主人公の属性によって英雄型と道化型に大きく二分できることが明らかになった。この英雄型と道化型という二つの型は、話型という概念には必ずしも影響を受けないので、同話型と分類される民話にも英雄型と道化型が混在することがありえる。すなわち、アアルネ・トンプソンによる話型という概

念では同一とされる場合でも、英雄型と道化型の違いによって弁別される可能性がある。「林檎の園」型民話と「半身小僧」型民話がどちらも AT301 に分類されるのにもかかわらず現地のイランにおいて別の話と認識されている理由はここにあると言える。

もっとも、AT301A 型と AT301B 型の違いという考え方は全く的是なわけではないと考える。あるいは、過去においては単純に 301A 型と 301B 型の二つの話が並存していたのかもしれないが、前述の英雄型と道化型という大きな潮流の影響を受けたことにより、一方の 301A 型に英雄的要素が入って「林檎の園」型に、もう一方の 301B 型に道化的要素が入って「半身小僧」型になり、それぞれ独自の変化を経た結果、相互に別の話と認識されるに至ったと推測することも可能である。

いずれにせよ、現在の資料を敢えて話型という概念を基準に分類するならば、少なくとも「林檎の園」型と「半身小僧」型が弁別されているイランの AT301 型は、A 型と B 型よりも、英雄型と道化型に細分した方が自然である。

- (1) Anjavī Shīrāzī, Sayyid Abū al-Qasim. *Qissah'ha-i Īrānī*. 4 vols. Ganjīnah-i farhang-i mardum 3[2nd ed.], 5 and 8. Tīhrān [Tehran]: Amīr Kabīr, 1973-1974. この民話集に収録される民話には、話者もしくは採集者の氏名、年齢、職業、また、採話地、採話年月等が詳細に記録されており、イラン民話の資料として、質、量ともに現在もっとも価値がある。
- (2) Aarne, Antti, and Stith Thompson. *The Types of the Folktale*. 3rd ed. Helsinki: Suomalainen Tiedeakatemia, 1973.
- (3) ローマ数字で表されるエピソードに関しては予め AT301 型に対応させた。また、a, b, c の記号に関してはイランの類話にあるモチーフを一般化して分類したもので、記号の後に具体的モチーフを記した。前掲書 (1) 所収の 6 話に加え、他の民話集で確認した 2 話を分析の対象とした。アンジャヴィーは同書において「金の鳥」(という民話を「林檎の園」型の類話としている。確かに個々のモチーフは他の「林檎の園」型と共通するものもあるが、一致は断片的であり、エピソード構成も AT301 より AT550 に近いので、今回は分析の対象とはしない。
- (4) 民話では龍は井戸の他、山、海、泉、ハンマームなど異界とされる場所に現れる。ここでいう井戸は具体的にはハンマームの竖井戸であると推測する。ちなみに、テヘラン南方 20km に位置するターレバーバード村では、村のカナートに龍が入るといふ伝説が残っているが、カナートに龍が棲むという俗信の一例である。詳しくは、竹原新著『イランの口承文芸－現地調査と研究』(溪水社, 2001), pp. 115-116 を参照。
- (5) 福田晃著『神道集説話の成立』(三弥井書店, 1984), pp. 88 - 184.
- (6) ある地域における特定の話型の一般的事例を示す場合、一事例をもってその地域の代表例とするのではなく、できるだけ多数の類話を比較して検証しなければならない。複数の類話を基に再構築した標準型は実際には存在しない民話であるが、その地域における当該民話の一般的なモチーフ構成を合理的に示す。
- (7) 前掲書 (5), p. 183.
- (8) 三原幸久著『スペイン民族の昔話』(岩崎美術社, 1969), pp. 49-50. 三原氏は MT (AT の旧称) 301 型について、タイプ I 「異常誕生型」(MT301B)、タイプ II 「金の果実型」(MT301A)、タイプ III 「女王失踪型」(MT301A) があると説明している。タイプ II 「金の果実型」(MT301A) がこれらのイランの類話に酷似している。
- (9) 原語における "nīm-e kūn" を「半身小僧」、"yek paraki" を「半分小僧」として区別した。前者は「体が半分」、後者は単に「部分」あるいは「半分」という意味が強い。

- (10) 前掲書 (1) に所収される民話「上手に話をする鳥」(類話 8, pp.155-164) では、主人公の少年の目の前に死んだ父親が現れて助言をするが、このとき父親は光って現れる。同書の「中国の町の娘」(類話 2, pp. 195-203) では、主人公の少年の行く手に輝く老人が現れて助言をする。また、同様に「蛇と農夫」(pp. 167-168) では、アッパース (イマーム・ホセインの兄弟 'Abās ibn 'Alī, Abū al-Faḥl) を指す。) が輝きながら現れる。このように、イランの民話においては、この世に出現する死者、あるいは道中で遭遇する助言者などの異人と解釈される人物を「光る」と描写することがある。
- (11) [Marzolph, Ulrich. *Typologie des persischen Volksmärchens*. Beirut : Orient-Institut der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft, 1984. pp. 113-117.] において、Marzolph 氏は「半身小僧」型を AT301 ではなく、AT550 に分類している。AT301 と AT550 は似たエピソード構成を持つが、2つの話型の決定的な違いは AT550 では宝物の探索が主目的であるのに対し、AT301 は魔物の退治あるいは奪われた娘の救出が主目的であることである。
- (12) 前掲書 (8), pp.49-50.
- (13) 題の前の番号は、[竹原新著『アンジャヴィー・シーラーズィー編『イランの民話』の話型分類とモチーフ一覧』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2000)] における民話の通し番号を指す。また、前掲書 (1) に単に原語で「類話 2」などと記載されている場合があるため、同じ題名になるものがある。また、ここでは英雄型と道化型という二つのタイプの AT 番号との関係を明らかにすることを目的とするため、AT 方式で分類できない民話は含んでいない。各話型とも A 型, B 型等の細分は省略する。

参考文献

- Aarne, Antti, and Stith Thompson. *The Types of the Folktale*. 3rd ed. Helsinki : Suomalainen Tiedeakatemia, 1973.
- Anjavī Shīrāzī, Sayyid Abū al-Qāsim. *Qissah'ha-i Īrāni*. 4 vols. Ganjīnah-i farhang-i mardum 3 [2nd ed.], 5 and 8. Tihṙān [Tehran] : Amīr Kabīr, 1973-1974.
- Bihrangī, Šamad, and Bhirūz Dihqānī. *Afsānah'ha-i Āzarbayjān*. Tihṙān [Tehran] : Intisharāt-i Majīd, 1998.
- Marzolph, Ulrich. *Typologie des persischen Volksmärchens*. Beirut : Orient-Institut der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft, 1984.
- Sādāt-i Ishkivarī, Kāzīm. *Afsānah'ha-i Ishkivar-i bālā*. Tihṙān [Tehran] : Intisharāt-i Vizārat-i Farhang va Hunar Markiz-i Pazhūhish'ha-i Mardumshinasī va Farhang-i 'Āmmih, 1974.
- Thompson, Stith. *Motif Index of Folk Literature*. 6 vols. Indiana : Indiana UP, 1955.
- 竹原新著『アンジャヴィー・シーラーズィー編『イランの民話』の話型分類とモチーフ一覧』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2000)
- 竹原新著『イランの口承文芸－現地調査と研究』(溪水社, 2001)
- 福田晃著『神道集説話の成立』(三弥井書店, 1984)
- 三原幸久著『スペイン民族の昔話』(岩崎美術社, 1969)

(2002. 4. 30 受理)

AT301「林檎の園型」のモチーフ比較表（1）

	【類話1】	【類話2】	【類話3】	【類話4】	【類話5】	【類話6】	【類話7】	【類話8】	
I 超自然的な出生と強	a.主人公の身分と属性	三人の王子を持つ王がいる。マレク・モハンマド王子だけが母親が別だが勇敢で恐れ知らずである。	三人の王子を持つ王がいる。	三人の王子を持つ王がいる。三男（マレク・ジャムシード）が最も勇敢である。	老夫婦と勇敢な息子アフマドがいる。	三人の王子を持つ王がいる。	三人の王子を持つ王がいる。	三人の王子を持つ王がいる。	
	b.木の実の由来					王は飼っている鸚鵡の里帰りの土産として林檎の種を得る。		王は飼っている鳩の里帰りの土産として林檎の種を得る。	
	c.木の実の種を植える					王は種を植える。		王は種を植える。	
	d.木の実が実る	王は夜光石の栴檀の成る木を持つ。	王は実が熟れると娘になる林檎の木を持つ。三つの実がなる。	王は林檎の木を持つ。ある年に七つの金の林檎が成る。		林檎が実る。	王は一年に一度実のなる食べると永遠に若くなれる林檎の木を持つ。	王は庭園に花を持つ。	金の林檎が実る。
	e.木の実が盗まれる	ある日夜光石の栴檀が盗まれる。		毎晩一つずつ実が盗まれる。		毎晩林檎が盗まれる。	毎年林檎が盗まれる。		ある日金の林檎が盗まれる。
	f.娘の肖像に恋をする				アフマドが三つの頭をもつディーヴに捕らえられている娘の肖像に恋をする。				
	g.家来を見つける				旅の途中、三匹のディーヴに相撲で勝ち家来にする。				
	h.魔物のいる町に着く				三つの頭を持つディーヴのいる町に着く。				
II 転落	a.仲間が番に失敗する	二人の兄弟（年齢の上下は記載されず）が居眠りをして番に失敗する。	長男と二男が居眠りをして番に失敗する。	長男と二男が居眠りをして番に失敗する。	家来のディーヴたちは三つの頭を持つディーヴに米をとられる。	長男と二男が居眠りをして番に失敗する。	長男と二男が居眠りをして番に失敗する。	長男と二男が居眠りをして番に失敗する。	
	b.主人公が魔物の一部を切る	マレク・モハンマドが雲から出た手を切る。	三男（マレク・モハンマド）が空から出た手を切る。	マレク・ジャムシードが毛むくじらの手を切る。	アフマドが三つの頭を持つディーヴの首を一つ切る。	三男（エブラーヒーム）が空から現れたディーヴの腕を切る。	三男（マレク・ジャムシード）がディーヴに傷を負わせる。	三男（名前は記されず王子と表現される）が盗人の腕を切る。	
	c.井戸に到着	血の跡を追って井戸に着く。	血の跡を追って井戸に着く。	血の跡を追って井戸に着く。	三つの頭を持つディーヴは井戸に逃げる。	血の跡を追って井戸に着く。	血の跡を追って井戸に着く。	血の跡を追うと石があり、その下に穴がある。	血の跡を追って井戸に着く。
	d.仲間が熱さで入れない	兄弟二人は井戸に熱くて入れない。	兄二人は井戸に熱くて入れない。	兄二人は井戸に熱くて入れない。	三匹のディーヴは井戸に熱くて入れない。	兄二人は井戸に熱くて入れない。	兄二人は井戸に熱くて入れない。	兄二人は穴に熱くて入れない。	兄二人は井戸に熱くて入れない。
	e.主人公が井戸に入る	マレク・モハンマドは井戸に入る。	マレク・モハンマドは井戸に入る。	マレク・ジャムシードは井戸に入る。	アフマドは井戸に入る。	エブラーヒームは井戸に入る。	マレク・ジャムシードは井戸に入る。	王子は穴に入る。	マレク・モハンマドは井戸に入る。
	f.井戸の番人を閉す					井戸を降りる途中で火を吐く龍を殺す。			
A 印の発見							井戸の底で金の卵を生むニワトリと金の赤子の入った金の掃りかごを見つける。		

AT301「林檎の園型」のモチーフ比較表（2）

	【類話1】	【類話2】	【類話3】	【類話4】	【類話5】	【類話6】	【類話7】	【類話8】
III 捕らわれた娘たち	a.娘（一人目又は同時に複数）を捕らえる魔物を退治する	娘（上の姉）を捕らえるディーツを剣で殺す。	娘（上の姉）を捕らえるディーツを剣で殺す。	三人の娘を捕らえる龍を剣で殺す。	娘を捕らえる三つの頭を持つディーツと二昼夜相撲をとり退治する。	娘を捕らえるディーツを命の瓶を割ることによって殺す。	娘（上の姉）を捕らえるディーツを命の瓶を割ることによって殺す。	娘を捕らえるディーツを命の瓶を割ることによって殺す。
	b.娘（二人目）を捕らえる魔物を退治する	娘（下の姉）を捕らえるディーツを剣で殺す。	娘（下の姉）を捕らえるディーツを剣で殺す。			娘（二人目）を捕らえる二匹目のディーツを命の瓶を割ることによって殺す。	娘（二番目の姉）を捕らえる二匹目のディーツを命の瓶を割ることによって殺す。	娘（二人目）を捕らえる二匹目のディーツを命の瓶を割ることによって殺す。
	b.娘（三人目）を捕らえる魔物を退治する	娘（末姉）を捕らえる三匹目ディーツを剣で殺す。	娘（末姉）を捕らえる三匹目ディーツを剣で殺す。			娘（三人目）を捕らえる三匹目のディーツを命の瓶を割ることによって殺す。	娘（末娘）を捕らえる三匹目のディーツを命の瓶を割ることによって殺す。	娘（三人目）を捕らえる三匹目のディーツを命の瓶を割ることによって殺す。
A 印の発見					娘から金の籠の入った金の籠と勝手に洗濯する金のたらいを得る。			金のニワトリと金の白をみつげる。（後に記載がある）
IV 救出		娘たちは井戸から出る。	娘たちは井戸から出る。	娘たちは井戸から出る。	娘は井戸から出る。	娘は井戸から出る。	娘たちは井戸から出る。	娘は井戸から出る。
V 裏切られた主人公		マレク・モハンマドは兄二人に騙されて井戸に残される。	マレク・モハンマドは兄二人に騙されて井戸に残される。	マレク・ジャムシードは兄二人に騙されて井戸に残される。	アフマドはディーツたちに騙されて井戸に残される。	エブラーヒームは兄二人に騙されて井戸に残される。	マレク・ジャムシードは兄二人に騙されて井戸に残される。	王子は兄二人に騙されて井戸に残される。
A 印の発見			真珠とルビーの出る金の白と喋ると嘴から宝石の出る金のニワトリの出でくる金の箱を見つげる。			井戸の中で一羽の金のニワトリと十二羽の金のひよこの載った金の盆、白い服と白い馬、剣などの財宝を見つげる。		
B 地下世界での冒険	a.白と黒の動物による転落	白と黒の羊が現れるが娘の指示とは逆に黒に乗ってしまい七階下の世界に落ちる。	白と黒の羊が現れるが娘の指示とは逆に黒に乗ってしまい七階下の世界に落ちる。		白い羊が現れて乗ると地下世界の町の端に連れて行かれる。	白と黒の羊が現れるが娘の指示とは逆に黒に乗ってしまい七階下の世界に落ちる。		白と黒の羊が現れるが娘の指示とは逆に黒に乗ってしまい暗黒界に落ちる。
	(b.大鳥の籠をねらう魔物を退治する)			鷹の籠をねらう蛇を倒す。				
	(c.羽を得る)			鷹からお礼に羽をもらう。				
	d.魔物退治1	牛剣いを恐れさせるライオンを手なずけて動車を引かせる。	牛剣いを恐れさせるライオンを退治する。		牛剣いを恐れさせる二頭のライオンを退治する。			

AT301「林檎の園型」のモチーフ比較表（3）

	【類話1】	【類話2】	【類話3】	【類話4】	【類話5】	【類話6】	【類話7】	【類話8】	
B 地下 世界 での 冒険	a.魔物退治 2	水を支配するライオン（同じライオン）を退治して生け贄の王女を救出する。	水を支配する龍を退治して生け贄の王女を救出する。	水を支配する龍を退治して生け贄の姫を救出する。	水を支配する龍を退治して生け贄の大臣の娘を救出する。	水を支配する龍を退治する。	水を支配する龍を退治する。	水を支配する龍を退治して生け贄の王女を救出する。	
	(a.白と黒の動物による転落)			白と黒の羊が現れるが鷹の指示とは逆に黒に乗ってしまい暗黒界に落ちる。					
	(d.魔物退治 1)			七つの頭を持つデューヴを倒し人々を救う。					
	b.大島の標をねらう魔物を退治	シーモルグの標をねらう蛇を倒す。	シーモルグの標をねらう蛇を倒す。		シーモルグの標をねらう龍を倒す。		シーモルグの標をねらう蛇を倒す。	シーモルグの標をねらう蛇を倒す。	シーモルグの標をねらう蛇を倒す。
	f.大島の背に乗る帰還	シーモルグによって地上世界に連れ帰られる。	シーモルグによって地上世界に連れ帰られる。	鷹によって地上世界に連れ帰られる。	シーモルグによって地上世界に連れ帰られる。	シーモルグによって地上世界に連れ帰られる。	シーモルグによって地上世界に連れ帰られる。	シーモルグによって地上世界に連れ帰られる。	シーモルグによって地上世界に連れ帰られる。
	c.羽を得る	別れ際に、燃やすとシーモルグを呼べる羽をもらう。	別れ際に、燃やすとシーモルグを呼べる羽をもらう。		別れ際に、燃やすとシーモルグを呼べる羽をもらう。		別れ際に、燃やすとシーモルグを呼べる羽をもらう。	別れ際に、燃やすとシーモルグを呼べる羽をもらう。	別れ際に、燃やすとシーモルグを呼べる羽をもらう。
	再 認識	a.職人の弟子になる	仕立屋の弟子になる。	金細工師の弟子になる。			金細工師の弟子になる。	金細工師の弟子になる。	金細工師の弟子になる。
b.娘は印を求め		娘たちの結婚式のための衣装を縫う依頼がくる。	娘は結婚の条件に喋ると囁から宝石の出る金のニワトリの出る金の箱を求め。			娘は結婚の条件に金の金のニワトリと十二羽の金のひよこの載った金の盆を求め。	娘は結婚の条件に金の卵を生むニワトリと金の赤子の入った金の揺りかごを求め。	娘は結婚の条件に金のニワトリを求める。	娘は結婚の条件に金のニワトリを求める。
c.印を用意する		シーモルグを呼び、アズマーベヘタランに服を作らせる。	シーモルグを呼び、喋ると囁から宝石の出る金のニワトリの出る金の箱を用意するが兄の手柄になる。			エブラーヒームが娘にもらった金の金の入った金の龍と勝手に洗濯する金のたらいを用意するが兄の手柄になる。	シーモルグを呼んで一羽の金のニワトリと十二羽の金のひよこの載った金の盆を用意させるが兄の手柄になる。	シーモルグを呼んで金の卵を生むニワトリと金の赤子の入った金の揺りかごを用意する。	シーモルグを呼んで金のニワトリを用意する。
d.娘は印を求め（2度目）			娘は結婚の条件に真珠とルビーの出る金の白を求める。						娘は結婚の条件に金の白を求める。
e.大島の助けで印を用意する（2度目）			シーモルグを呼び、真珠とルビーの出る金の白を用意するが兄の手柄になる。						シーモルグを呼んで金の白を用意する。
f.主人公が認識される		衣装の美しきから王宮へ呼ばれ娘と再会する。	黒い服を着て黒い馬に乗り結婚式の日に娘を奪い返す。	競技（棒を割る、獅子を倒す、鎖をちぎるといった大道芸的なもの）で目立った成績を達成する。	シーモルグの羽を顔にあてると老人になった顔が若返る。	金細工職人のエブラーヒームが王宮に呼ばれ娘と再会する。	白い服と白い馬をシーモルグに用意させ、結婚式当日の競馬で勝ち、娘と再会する。	金細工屋で王と娘と再会する。	赤い服と赤い馬をシーモルグに用意させ、結婚式の当日に花婿である兄を殺す。さらに緑の服と緑の馬をシーモルグに用意させ、結婚式の当日に花婿であるもう一人の兄を殺し、娘と再会する。
g.仲間への罰		兄たちを許す。	父王と戦争して兄たちを捕虜にする。（殺さない）	兄たちほうなだれる。（殺されない）	デューヴたちを許す。	兄たちの罰を免除する。	兄たちを許す。		
h.娘との結婚		娘と結婚する。	王位を継ぎ娘と結婚する。	王位を継ぎ娘と結婚する。	娘と結婚する。	娘と結婚する。	娘と結婚する。	王位を継ぎ、娘と結婚する。	王位を継ぎ娘と結婚する。

イラノ民話における二つのAT301型

AT301「半分小僧型」のモチーフ比較表

	【類話1】	【類話2】	【類話3】	【類話4】	【類話5】	
I 超自然的 出生と 強さ	a.子のない夫婦	子のない破産した商人がいる。	三人の妻と三つの庭と三頭の馬をもつ極貧の男がいる。	三人の妻を持つ子のない王がいる。	七人の妻をもつ子のない王がいる。	三人の妻をもつ子のない男がいる。
	b.木の実をもらう	商人は托鉢僧にキビを買う。	男は光る男に九個の林檎を買う。	托鉢僧に林檎を買う。	托鉢僧に七つの林檎をもらう。	托鉢僧に三つの林檎をもらう。
	c.複数の子供を得る	不信心のため、朝起きてみるとうじゃうじゃ子供がいる。靴で順番にはたき殺す。	妻たちが馬たちと庭園に三つずつ割り当てるとそれぞれ子供と木の実ができる。	妻たちが食べ、三人の子供が生まれる。	妻たちが食べ、七人の男の子が生まれる。	妻たちが食べ三人の男の子が生まれる。
	d.子供の一人は体(の一部)が半分である	二人の金髪の子供と一人の体が半分だけの子供が生き残る。	子供、子馬、木の実ができるが三番目の妻の子は林檎を半分しか食べなかったので一本足である。	林檎を半分しか食べなかった妻の子は体が半分しかない。	林檎の半分をニワトリに食べられた妻の子は体が半分である。	林檎の半分をニワトリに食べられた妻の子は一本足である。
II 転落	a.兄弟が悪者征伐に出発する	商人の財を奪ったディーツ退治をすることになり、金髪の兄弟二人が行く。	兄二人がディーツを倒しに行く。	マーザンダランのディーツを退治しに半分小僧以外の兄弟二人は出発する。	半分小僧以外の兄弟六人はディーツ退治に出かける。	一本足の少年以外の二人は父親のお金を貰いに(悪い)王に会いに行く。
	b.兄弟は難題を解けない			途中で会った羊飼いや、ラクダ飼いや、老女の難題を解けない。	途中、羊飼いや水車番とラクダ飼いに会い、難題を出されるが解けない。	途中、牛飼いや羊飼いや水車番に会い、難題を課されるが失敗する。
	c.兄弟が悪者征伐に失敗する	兄弟二人は捕らえられ、井戸に閉じ込められる。	兄二人は恐れて帰る。	兄弟二人はディーツ退治に失敗して捕らえられる。	ディーツに山に幽閉される。	兄弟は王宮で眠っているあいだに王(娘がいる)に殺される。
	d.主人公が難題を解く			半分小僧は、鶏に乗って出発し、羊飼いやラクダ飼いや、老女の難題を解く。	半分小僧は羊飼いや、水車番、ラクダ飼いの難題を解く。	一本足の少年は、牛飼いや羊飼いや水車番の難題を解く。
III 捕らわれた娘		娘を捕らえるディーツを倒す。	三人の娘を育てるディーツを倒す。	娘をもつディーツを退治し、兄弟たちを助ける。	一本足の少年は王宮で眠らず、逆に王を騙し打ちにする。	
IV 救出	娘を助け、財宝を得る。	井戸に捕らえられている娘を助け、財宝を得る。	娘を連れだし、財宝を得る。	娘を連れだし、財宝を得る。	財宝を手に入れる。	
V 裏切られた主人公	井戸に入って兄弟二人を助ける。二人は娘と半分小僧を井戸に閉じ込める。	兄二人に裏切られて、娘とともに井戸に残される。	助けた兄弟に裏切られ井戸に置き去りにされる。	兄弟たちに井戸に置き去りにされる。		
VI 再認識	a.兄弟の策略がばれる	娘と半分小僧は宝箱に隠れて家まで帰り、二人の策略はばれる。	娘と一本足の弟は袋の袋に隠れて家まで帰り、二人の策略はばれる。	父王がマーザンダランにやって来て、兄弟たちの策略がばれる。	箱に隠れて家まで帰り、二人の策略はばれる。	
	b.兄弟への罰	兄弟は許される。			兄弟たちは追放される。	
	c.娘と結婚する	半分小僧は、娘と結婚する。	父親は三男に家を継がせ、娘とも結婚させる。	三人の娘はそれぞれ三人兄弟と結婚する。	半分小僧が王位を継ぐ。	一本足の少年は、両親と幸せに暮らした。